

おたふくかぜ 公費予防接種のお知らせ

沖縄市では、行政措置予防接種として、おたふくかぜワクチンの接種を次の内容にて全額公費（無料）で実施しています。

内容をよく読み、保護者が希望する場合のみ、公費で接種を受けることができます！

実施期間：2019年4月1日～2020年3月31日

対象者：沖縄市に住民登録のある1歳児

※これまでに、おたふくかぜにかかったことがある方や、すでに予防接種を受けた方は、接種する必要はありません。



接種回数：1回（1歳の間に1回のみ公費対象です）

実施場所：中部地区の指定医療機関 ※別紙をご覧ください

接種費用：無料

※ただし、実施期間内に指定医療機関にて接種を受けた場合に限ります。（実施期間外の接種や、指定医療機関以外での接種は、公費の対象となりませんのでご注意ください！）

重要！ 行政措置予防接種について

今回の予防接種は、予防接種法に基づく定期予防接種ではなく、沖縄市が独自に行う予防接種（行政措置予防接種）となります。接種は公費（無料）で受けられますが、予防接種による健康被害が起きた場合、予防接種法に基づく救済の対象にはなりません。行政措置予防接種に起因して死亡または身体障害を被った場合には、沖縄市予防接種事故災害補償規則に基づく補償の対象となります。（給付額は接種日時点のものから変更とすることがあります。）そのほか独立行政法人医薬品医療機器総合機構に對し、疾病に対する医療費、医療手当、障害年金、障害児養育年金、遺族年金、遺族一時金、葬祭料の給付請求ができますが、その請求は健康被害を受けた本人またはそのご家族が直接行うこととなります。

これらの点を十分ご理解した上で、お子様への接種を希望するか、判断をお願いいたします。

**接種を希望する方は、事前に予約をしましょう！
予診票は、指定医療機関に用意しています。**



おたふくかぜ（流行性耳下腺炎）とは、こんな病気です

おたふくかぜウイルス（ムンプスウイルス）によって引き起こされます。飛沫感染・接触感染でウイルスに感染すると、2～3週間の潜伏期間を経て、両方または片方の耳下腺（耳の下からほほにかけて）がはれて痛みます。その他の症状としては、発熱、頭痛、倦怠感、嘔吐、食欲低下などがありますが、通常1～2週間で軽快します。感染しても症状が現れない不顕性感染も見られます。

合併症としては、無菌性髄膜炎、難聴（一過性の聴力低下や回復しない難聴）、脳炎などがあり、思春期以降にかけると精巣炎や卵巣炎、肺炎をおこすことがあります。



予防接種を受けることができないう方

- ①明らかに発熱している方（接種前体温37.5℃以上）
- ②重い急性疾患にかかっていることが明らかな方
- ③ワクチン成分によってアナフィラキシーをおこしたことが明らかな方
- ④明らかに免疫機能に異常のある病気をもっている、または免疫抑制をきたす治療を受けている方
- ⑤上記に掲げる者のほか、予防接種を行うことが不適当な状態にある方

アナフィラキシー
通常、接種後30分以内に出現する呼吸困難や全身性じんましんなどを伴う重いアレルギー反応のことです。

予防接種を受ける前に、医師とよく相談しなければならぬ方

- ①心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害など基礎疾患のある方
- ②予防接種を受けた後2日以内に発熱のみられた方や全身性発疹等のアレルギーを疑う症状があった方
- ③過去にけいれん（ひきつけ）をおこしたことがある方
- ④過去に免疫不全の診断がなされている方、近親者に先天性免疫不全症の方がいる方
- ⑤ワクチン成分によってアレルギーをおこすおそれのある方

おたふくかぜワクチンの副反応

注射部位の赤み・はれ、発熱や耳下腺のはれ、発疹、じんましん、かゆみを認めることがあります。これらは通常、数日以内に自然に治るので心配はいりません。重い副反応として、非常にまれですが、シヨック、アナフィラキシー（じんましん、呼吸困難、血管浮腫等）、無菌性髄膜炎、急性散在性脳脊髄炎、脳炎、脳症、血小小板減少性紫斑病、難聴、精巣炎、急性脾炎の報告があります。

接種から2～3週間後に、頭痛、嘔吐などがみられた場合は、ワクチンによる髄膜炎発症の可能性があるので注意しましょう。接種後、高熱などの異常がみられた場合は、接種した病院等で医師の診察を受けましょう。

お問合せ：沖縄市役所 ことも相談・健康課予防係

939-1212（内線2232・2233）

※このリーフレットの情報は平成31年3月現在のものです。